

早実陸友会通信

2022年3月19日 発行 第10号

1. 現役活動報告

2021年度も2020年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大の影響があるシーズンでした。しかし、2020年度に比べると、制限がありつつも出場できた大会も増え、いい方向に向かったと思います。2021年シーズンの軌跡を以下に記します。

★ 東京都高校総体 –小平 W 入賞！–

2021年5に行われた上記大会は支部予選の結果、6名の選手が出場権を得た。まず、目立った活躍を見せたのは高2の小平である。第1週の男子1500mでは3:55.59の好記録で第7位に入賞すると、第2週の男子5000mでは14:44.59で第2位に入賞し、この種目では南関東大会への出場権を得た。その他高1の吉倉や中村といったルーキーも初年度から都総体へ進出し、経験を積むことができた。

★ 南関東高校総体 –小平, 来季へ向けて経験を積む–

都総体の結果、本校から上記大会唯一の出場者となった男子5000mの高2小平であるが、14:52.63という結果でインターハイへ進出することはできなかった。しかし、インターハイへのレベルを肌で感じたはずで、来季もチャンスがあるためいい経験を積んだはずである。

★ 東京都中学校総合体育大会&都中学校通信陸上 –北條・出家鮮烈デビュー–

2021年6,7月に行われた上記2つの大会は中1男子1500mで北條&出家, 中2女子100mで大上, また共通女子の4×100mRで出場を果たした。まず、中1男子1500mの北條・出家コンビが鮮烈なデビューを果たす。総体で北條が3位, 出家が4位となると、通信でも北條が2位, 出家が4位でW入賞となった。この結果北條は関東中学陸上競技大会への出場を決めた。また、中2女子100mで大上が総体にて5位に入賞した。



中1男子1500mで躍動する北條&出家

★ 国民体育大会東京都代表選手選考会&1年生都大会 –吉倉, 好記録で優勝！–

2021年7月に行われた上記2つの大会において、新高1の3名が力を発揮した。まずは国体選考会において、少年B男子3000mで高1の吉倉が8:31.32の好記録で優勝を果たし、国民体育大会への出場権をグッと引き寄せた。また、両大会とも女子走幅跳に出場した高1中村は国体選考会が5m42で第3位, 1年生都大会が5m48で第4位にそれぞれ入賞した。最後に、1年生都大会男子800mへ出場した高1浅川は1:59.12で第4位に入賞した。

★ 関東中学陸上競技大会 –北條関東入賞！–

2021年8月に熊谷で行われた上記大会の1年男子1500mで出場権を得た中1北條は、酷暑の環境の中なんと第5位に入賞し、関東レベルの中でも結果を残した。記録は4:26.61であった。

★ 東京都私立中学高等学校陸上競技大会 –中1北條、酒井OBの記録を30年ぶりに更新–

中高短距離・中長距離全部員で参加した上記大会でも出場した選手が健闘した。まずは中1男子1500mに出場した北條&出家コンビであるが、なんとワンツーフイニッシュ！特に北條の記録4:25.14は酒井理弘OBが持つ大会記録を30年ぶりに更新する快挙であった。また、北條は大会の優秀選手にも選ばれた。

高等部では高1中村の活躍が目立った。女子走幅跳において5m54の好記録で第3位となると、女子100mHでも17.01で第7位へ入賞し、W入賞で得点を重ねた。また、高3前田は高校初挑戦の800mで1:59.25の記録をマークし、第4位に入賞した。2分を切りたいと意気込んでいたが、見事な走りであった。

★ 東京都高校新人陸上競技大会 –吉倉&中村関東新人へ進出！–

秋の都大会である上記大会では今シーズン短長で好調な高1コンビが活躍した。まず、男子長距離の吉倉は男子1500mでは3:54.39で第2位に入賞、男子5000mでは15:03.77で第7位に入賞した。また、女子短距離の中村は女子走幅跳において5m48で第6位に入賞した。この結果、吉倉・中村両選手ともに関東高校新人へ進出した。



女子走幅跳で入賞した高1中村

★ 関東高校新人陸上競技大会 –吉倉、関東で優勝！！–

上記大会は茨城県の笠松運動公園陸上競技場で行われ、本校からは男子1500mで高1吉倉が、女子走幅跳で高1中村が出場した。中でも吉倉は決勝3:55.11で駆け抜け、なんと関東の舞台で優勝を果たした。中村も来季インターハイ出場に向けて関東の舞台で経験を積むことができた。

★ 東京都高校駅伝 –好記録も関東駅伝進出はここで途絶える–

10月に行われた東京都高校駅伝は1区・小平2区・前田3区・吉倉4区・齋藤5区・浅川6区・加藤7区・元山のオーダーで臨んだ。1区小平が30:37で4位につけると、前田・吉倉も順位をキープ、しかしそれ以降で順位を落とすと最後まで上げることはできず、結局7位(2:11:52)という結果であった。この結果、16年続いていた関東高校駅伝への出場が途絶えることとなったが、逆にこれをいい機会にチームをもう一度立て直し、次年度以降の糧としたい。

★ 東京都中学駅伝 –あと1歩で関東進出を逃すも、見事5位入賞–

2018年度35位、2019年度9位、2020年度6位と毎年着実に順位を上げて力をつけてきた長距離中学男子チームは1区・北條2区・美濃部3区・荒川4区・出家5区・佐々木6区・吉田のオーダーで悲願である関東中学駅伝を目指し、出走した。1区北條は1年生ながら全体9位という順位で襷を渡すと、4区出家と5区佐々木が区間2位の走りで4位へ浮上、最終的には5位という結果で関東中学駅伝の切符を逃すが、また順位を上げ、成長を感じさせた。来年度は順位を上げ、関東・全国の駅伝へ駒を進めたい。

これ以外の大会でも多くの選手たちが活躍してくれた。また、大会に出場できずに悔しい思いをした部員も多くいるが、それぞれ自身のできることをこなし、2021年シーズンも部として活動することができた。スペース的にすべてを載せることができないので、残りはホームページをご覧ください。

陸上競技部顧問 宗雪 史弥

2. OB・OGの活躍

佐藤恵介（早稲田大学4年生、競走部2021年度主務）

1月3日、早稲田大学競走部に憧れ続けた陸上競技人生が一つの終わりを迎えました。元々は、選手として襷をかけることを夢見ていましたが、完治しない怪我や実力不足を理由に、大学からはマネージャーとして陸上に携わりました。競走部を諦めきれない思いや、今までの陸上人生に報いる気持ちで始めた競走部のマネージャーでしたが、この選択は間違っていなかったと言えます。仕事のスキルやノウハウはもちろん、何より、人として大きく成長できた4年間でした。競走部に入っていなければ、副務や主務としてプレッシャーと闘い続けることも、チームをまとめる立場としてマネジメントに苦慮することも無かったと思います。思い返すと、1年生時には全く考えも及ばなかった「強いチームを作るためにはどうすべきか」ということを、4年生時にはひたすら考え続けていました。正直なところ、上手いかならないことばかりで、後悔も多く残してしまいました。引退してから反省し続けるばかりで、今はまだ割り切れてはいませんが、これからの人生に生きる経験になったと感じています。自分の陸上人生の夢であり終着点でもあり、成長させてくれた早稲田大学競走部に、今後も何らかの形で貢献できればと思っています。



（早稲田大学競走部 HP より）

新上健太（早稲田大学 2 年生、競走部 短距離ブロック）

2021 年シーズンを振り返ると、「思い通りに走れなかった」というのが率直な感想です。昨冬は練習を十分に行うことができたにも関わらず、シーズン直前に走りが崩れてしまいました。5 月に辛うじて自己ベストを更新しましたが、6 月の故障によって秋シーズンを戦い抜くことができませんでした。結果として、戦績もタイムも目標からかけ離れたものとなりました。しかし、苦しい時間から学ぶものは多く、2022 年シーズンに向けて練習の中で確かな手応えを感じています。今年には日本学生陸上競技個人選手権大会、日本学生陸上競技対校選手権大会の優勝、日本陸上競技選手権大会の出場を目標にしています。コロナウィルスが猛威を振るう中、これらの目標を達成するために、走らせて頂く全ての瞬間を無駄にすることなく取り組んでいきたいと思ひます。



（早稲田大学競走部 HP より）

石塚陽士（早稲田大学 1 年生、競走部 長距離ブロック）

昨年度卒業生の石塚陽士です。現在は、早稲田大学競走部にて活動しております。昨年はこれまでで最も忙しい一年でした。授業と慣れない寮生活でいっぱいばいばいで、夏まで思うような結果が出ませんでした。駅伝シーズンでは出雲区間賞をはじめ、合格点を出せるシーズンとなりました。しかし、チームとしての駅伝の結果は個人の充実度とは必ずしも比例しません。個人として快心の結果を得られたとしても、チーム全体にそれが伝播するとは限らないのは、駅伝の難しさの一つでしょう。早実陸上部は関東駅伝の出場を、競走部は箱根駅伝のシードを逃し、チームとしてみんな悔しい想いをしました。北爪先生が現役の頃、関東出場権を逃した次の年に都大路出場を叶えています。悔しさをバネにして、目標を叶えるためにお互い頑張っていきましょう。



（月刊陸上競技より）

3. 役員会よりお知らせ

★ 第4回総会報告 会長 木村哲久

去る2021年12月18日、早実陸友会第4回総会が行われました。今回は新型コロナウイルスの感染拡大状況をふまえ、Zoomミーティングでの開催とさせて頂きました。約20名の方にご参加頂き、無事に総会を終えることができました。総会ではこの3年間の活動報告、会計報告を行い、また、皆様より、引き続き会長としてのご信任を頂きました。会長以下の役員は会長が選出することになっておりますが、現役員には引き続きおねがいしたいと思います。また、若い力も入れていきたいと思っておりますので、興味がある方は事務局までご連絡下さい。

コロナ禍のもとで学校のクラブ活動も大きな制約を受けているようですが、北爪先生、宗雪先生、鈴木先生のご指導のもと、現役生が活動を続けていられることに感謝申し上げます。また、昨年卒業した石塚君は、舞台を大学に変えて活躍を続けており、OB・OG一同大きな力を頂いております。これら、現役生や卒業生の活動を応援・サポートすることも本会の大きな目的と考えます。

本来なら皆さんで顔を合わせ、これらの話題で楽しく盛り上がりたいたころではありますが、コロナ禍によりそのような機会もめっきり減り、寂しい限りです。是非今年は、皆様が集える企画を準備し、ともに走った仲間と親交を深めたいと思います。

最後に皆様をお願いします。この早実陸友会は、皆様から任意で頂く会費で運営されております。現役部員をしっかりとサポートするためにも、是非会費の納入にご協力をお願いいたします。

★ 各学年幹事について

総会のお知らせハガキに記載させていただいた各学年の幹事ですが、ご回答いただきありがとうございました。とりあえず、以下の方々に幹事としてご協力いただければと思います。連絡先不明者の追跡や陸友会からの連絡等を同学年の方々にしていただければと思います。他の学年でも引き受けていただける方はHPのお問い合わせからご連絡をお願いします。よろしくをお願いします。

1976年卒	石川 二郎 様	1983年卒	佐藤 功 様, 香取 淳一 様
1998年卒	原田 正彦 様	2000年卒	平岡 謙亮 様
2020年卒	栗原 豊季 様	2021年卒	荒川 蓮 様

★ 会費納入のお願い

会の維持・会員への連絡・現役への支援などのために、**社会人の皆様から3,000円の会費を頂いております**（学生の方は免除させて頂いております）。**三菱UFJ銀行 国分寺支店 普通口座0113511（早実陸友会）まで、直接お振り込み頂ければ幸いです。**なお、誠に勝手ながら、手数料は振込者負担でお願いいたします。

また、振込者を迅速に確認できるように、「1985キムラノヒサ」というように、お名前の前に卒業した年を西暦で入れて頂けると幸いです。

2021年度会計報告

2021年度 早実陸友会 会計		
収入		
前年度繰越金		268728
OB会費(口座に直接振込)		161780
利息(2021.03-2022.02)		3
計		430511
支出		
5月22日	コピー代	820
4月8日	封筒代	6380
5月15日	送料	34056
5月15日	振込手数料	220
9月22日	資料郵送費	420
11月9日	総会案内ハガキ	27090
11月9日	ハガキ引き替え	525
	陸上部へ寄付	50000
計		119511
	預金	311000

早実陸友会通信 第10号 2022.3.19

発行／早実陸友会事務局

北爪貴志(陸上競技部顧問), 鈴木雅隆(陸上競技部副顧問)

宗雪史弥(陸上競技部副顧問)

早実陸友会HP(陸上部HP)

<https://wasedajgtf.com/>

※本誌掲載事項の無断転載を禁じます